

巻頭言

センター長 齊藤 忠夫

東京大学情報基盤センターは東京大学大型計算機センター、東京大学教育用計算機センター、東京大学附属図書館の一部を中心とし、多くの部局の協力の下に平成11年4月1日に新しい組織として発足しました。

大学における計算機の活用は当初大型計算機のバッチ処理による共用にはじまり、やがてTSS、RJEによる遠隔利用に進みました。今では、多くのパーソナルコンピューターやワークステーションが、キャンパス内のLANで接続され全世界的なインターネットによって多様な情報の共有が日常的に行われるようになっていきます。データベースの活用も1970年代から文献データベースを中心に行われていますが、さらに多様なコンテンツデータベース、ファクトデータベースが求められています。

高性能計算機は当初大型計算機と呼ばれていましたが、今では大型計算機の名称はあまり使われなくなり、一般の計算機に比べて格段に計算能力の高い計算機はスーパーコンピューターと呼ぶようになっていきます。スーパーコンピューターは今では先端技術を支える基本的ツールとして不可欠なものになって来ています。

東京大学大型計算機センターは大学における計算機利用の発足の各段階において主要な多くの技術を全国の大学の研究コミュニティに広げる多くの歴史的役割を果たして来ました。大型計算機の多様な活用、ライブラリーの整備、データベースの活用、キャンパスネットワーク、地域ネットワーク、インターネットの活用など多くの技術で東京大学大型計算機センターは重要な役割を果たしてきました。技術の進展と共にこれらの技術の中には大型計算機センターの手を離れ、他の主体によって担われるようになっていくものも少なくありません。技術の広がり、主要な利用者、ソフトウェアあるいはデータベースのライセンスの形態なども時代と共に変化し、全国的なサービスとしてひとつのセンターで実現する形がとりにくくなってきたものも少なくありません。一般のサービス価格が低くなり、大学を主体として実現する必要性が低くなったサービスもあります。

東京大学大型計算機センターの時代にも新しいサービスを開発し、業務に取り入れると共に、昔からのサービスを見直す作業は不断に行われて来ました。東京大学情報基盤センターへの改組もそうした見直しのひとつとして行われたものです。新しい組織では学内の多くの部局との協力の下に学内共同利用とし

てふさわしいサービスは学内共同利用とし、全国共同利用としてふさわしいサービスは全国共同利用として整理しています。

全国共同利用のサービスは今までも最も力を入れているスーパーコンピュータのサービスを中心としております。全国共同利用の広報誌であるセンターニュースはこの機会にスーパーコンピューティングニュースと名称を改め、スーパーコンピュータ技術を中心にまとめることとしました。

東京大学情報基盤センターでは平成11年3月に従来の HITAC S-3800 スーパーコンピュータを HITACHI SR8000 に更新しました。SR8000 は 1 TFLOPS という夢の高性能を実現するものであり、平成8年から利用されている超並列コンピュータ HITACHI SR2201 と共に新しいスーパーコンピュータの時代を拓くものと考えます。

スーパーコンピュータ利用者の間での情報交換が新しいセンター広報であるスーパーコンピューティングニュースを活用して充実し、スーパーコンピュータ活用の高度化が進展するよう各位のご協力とご支援をお願いいたします。